

今週（12月13日から12月17日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、15日までは積み終盤であることから出会いレートは高水準で推移した。16日以降は新積み期入りしたものの、取り手の堅調な調達から比較的しっかりと地合いが続いた。無担保コールO/Nは、邦銀を中心に▲0.055～▲0.005%のレンジでの出会いとなった。

週初、13日の無担保コールO/N加重平均レートは▲0.009%と、先週末での強含みを引継ぎ、高いレート水準での出会いとなったが、13日から15日にかけて国債買現先オベにより大規模な資金供給実施され、14日はビッドサイドの調達意欲は引き続き旺盛ではあったものの週初の過熱感は沈静化し▲0.014%へと低下し、更に積み最終日にあたる15日は調整を終えた先が散見され、▲0.022%と更に低下した。新積み期間に入った16日もビッドは底堅く▲0.033%となった。17日は3日積みにあたるため、一部取り上がる先が見られた。ターム物に関しては、ショートタームでの引き合いが散見された。

日銀当座預金残高は520兆円台前半から始まり、国債買現先オベ及び年金定時払いの影響から15日には534兆円程度まで膨らんだ。新積み期を迎えた16日以降は530兆円程度で推移した。

12月16日～17日に開催された金融政策決定会合では、新型コロナナ特別プログラムの一部について、期限が延長されることとなった。内容としては、①中小企業等向けのプロパー融資分は、現行の取扱いのまま、期限を半年間延長②中小企業等向けの制度融資分は、2022年4月以降、付利金利を0%（カテゴリーⅢ）、マクロ加算残高への算入は利用残高相当のみとして、期限を半年間延長である。

なお、大企業向けや住宅ローンを中心とする民間債務担保分や、CP・社債等の買入れ増額措置は、期限どおり、2022年3月末をもって終了する。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、13、14日は▲0.070～▲0.035%、15～17日は▲0.085～▲0.080%程度の水準で推移した。SC個別銘柄では、5年140～149、10年350～364、20年170～178、30年60～72、40年9～14などカレント近辺の銘柄に引き合いが多く見られた。

また、今週は日銀による国債買現先オベが実施され、T+0分が13～15日に2兆円ずつ、T+1分が14日に7兆円でオフアされた。

●短国市場

今週の短国市場は、短国買入オベの実施が見送られる中で三回の入札が行われた。年末の参加者減少による需給軟化も懸念されたものの、底堅く推移した。

14日に実施された6M物の入札は無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、やや堅調に推移した。

15日に実施された1Y物の入札は無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、底堅く推移した。

16日に実施された3M物の入札は、しっかりとした結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、やや堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、年内物の発行が減少する一方で、年末越え物を中心に多くの業態から大型発行が実施された。週間では大幅な発行超となり、活況な一週間であった。また、発行総残高は、先週末に過去最高の残高を記録して以降も積み上がっており、16日時点で26兆6,000億円弱と日々記録を更新している。発行レートは、年越え物の希少銘柄で引き合いが非常に強く、担保確保のための応札により低位の足切りが散見されている。一方で、発行量が多い銘柄では、浅いマイナスから0%にかけての足切りが多い。14日には、CP等買入オベが予定通り5,000億円オフアされた。応札8,261億円、落札4,996億円、平均落札レート▲0.010%、按分レート▲0.014%と、前回比では平均レートのみ若干上昇した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日 物・T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
12/13（月）	28,640.49	0.045	113.55	△ 0.009	△ 0.041	5,239,100
12/14（火）	28,432.64	0.045	113.65	△ 0.014	△ 0.074	5,251,900
12/15（水）	28,459.72	0.045	113.78	△ 0.022	△ 0.087	5,341,300
12/16（木）	29,066.32	0.040	114.13	△ 0.033	△ 0.089	5,307,600
12/17（金）	28,545.68	0.044	113.85	△ 0.028	△ 0.087	5,306,900

来週（12月20日から12月24日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
12/20 (月)	7-9月期の資金循環統計速報(日銀 8:50)		
12/21 (火)	月例経済報告(内閣府)		
12/22 (水)	金融政策決定会合議事要旨(10月27・28日分 8:50)		7-9月期の米GDP確報値 11月の米中古住宅販売 7-9月期の英GDP確報値
12/23 (木)	日本経済団体連合会審議委員会において黒田総裁講演 10月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)	流動性供給 5,000億円 12/24発行	11月の米新築一戸建て販売件数 11月の米耐久財新規受注 11月の米個人所得・消費支出
12/24 (金)	11月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 11月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50) 11月の住宅着工統計(国土交通省 14:00) クリスマスイブ		New Yor祝日(Christmas Day,observed) EURO祝日(Christmas Eve)

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
12/20 (月)	▲ 2,000	74,400	72,400	CP買入 社債買入 国債補完	▲ 300 ▲ 600 100		▲ 800	71,600	国債の大量償還・利払い TB3M発行▲43000償還50000 TB1Y発行▲35000償還14100 エネルギー対策借入▲6500期日6000 5Y償還7200 10Y償還55400 20Y償還12200
12/21 (火)	▲ 2,000	1,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	恩給
12/22 (水)	▲ 3,000	0	▲ 3,000	全店共通	▲ 2,500		▲ 2,500	▲ 5,500	
12/23 (木)	▲ 4,000	▲ 1,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	
12/24 (金)	▲ 3,000	▲ 3,000	▲ 6,000	社債買入		800	800	▲ 5,200	流動性供給▲5000
週間合計	▲ 14,000	71,400	57,400	—	▲ 3,300	800	▲ 2,500	54,900	

12/20は日銀予想、12/21以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、引き続き調達サイドがしっかりしており、市場での放出量によってレートが上昇する可能性もあるため、オファーサイドの動向が注目される。レポ市場は、GC T/Nは、参加者のスタンスに大きな変化がなければGC O/N物のレートは▲0.085～▲0.080%程度の水準で推移することが見込まれる。短国市場は、入札は予定されていない。21日に実施が予想される短国買入オペのオファー額、実施の有無に注目したい。CP市場は、金融政策の一部変更が行われたものの、発行レートへの影響は現時点では軽微なものにとどまると思われる。

主要なイベントは、国内では24日に11月の全国CPI、海外では22日に7-9月期の米GDP確報値、7-9月期の英GDP確報値が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入